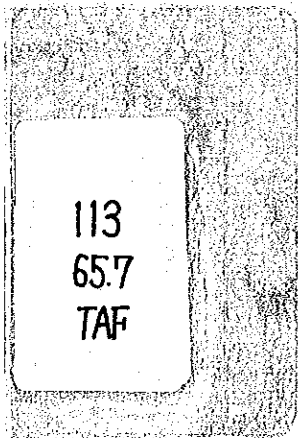


昭和57年度帰国研修員巡回指導

船員教育行政コース 帰国研修員巡回指導班報告書

国際協力事業団
研修事業部

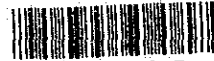


研・一
J R
83 - 1

昭和57年度帰国研修員巡回指導

船員教育行政コース
帰国研修員巡回指導班報告書

JICA LIBRARY



1059631[0]

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団	
受入 月日 58.6.28	113
84.5.23	65.7
登録No. 07049	TAF

は　じ　め　に

この報告書は、国際協力事業団が実施した集団研修「船員教育行政コース」に参加した帰国研修員に対するフォロー・アップ事業の一環として、帰国研修員の所属機関等を訪問し、現地での諸問題に関する指導並びにニーズの調査等を行なうため、昭和58年1月24日から2月6日までの14日間、マレーシア、シンガポールの2ヶ国に派遣した巡回指導班の業務報告書である。

本報告書により、当該分野における各国の実情、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題及び研修にかかる要望事項等について関係各位のさらに深い理解をいただき、今後の研修コースの改善に資すれば幸いである。

なお、本件の実施のために御協力を賜った外務省、運輸省船員局並びに現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館及び関係機関の皆様に深甚の謝意を表したい。

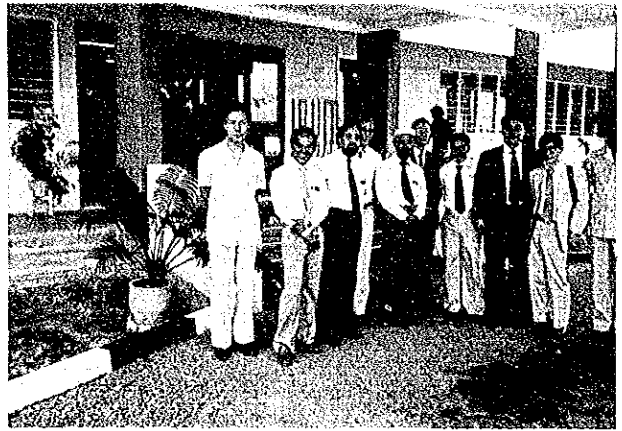
昭和58年3月

研修事業部

部　長　山　村　寛



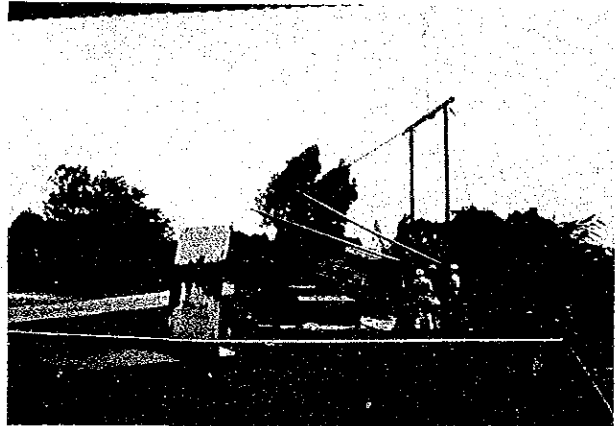
Mariners' Clubにて
(中央 Maritime Dept. 局長)



Maritime Academy 正門にて



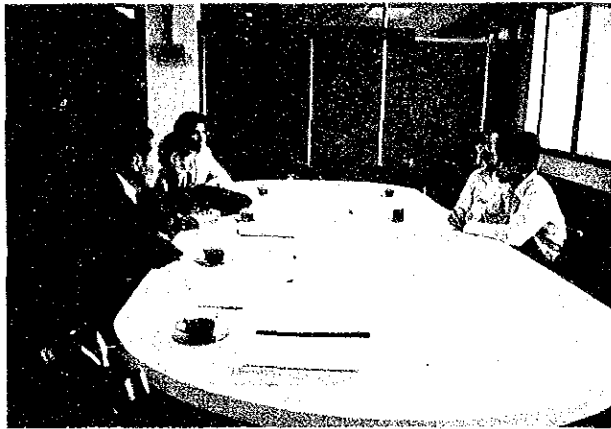
Maritime Academy 実習施設



同左実習施設



Malaysian International Shipping Corporationにて
帰国研修員と面談



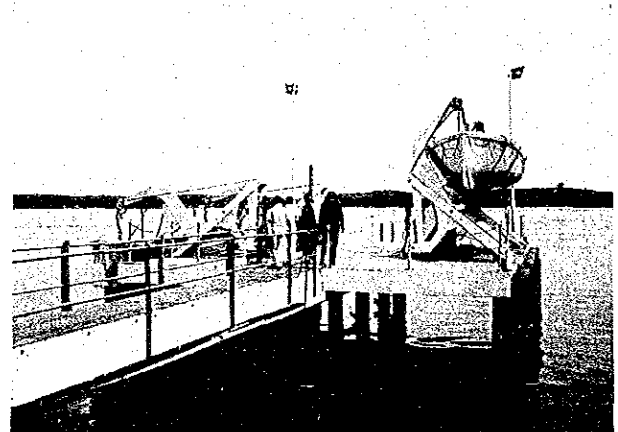
Marine Departmentにて
Deputy Director Mr. Teh Kong Leong
(右端)と面談



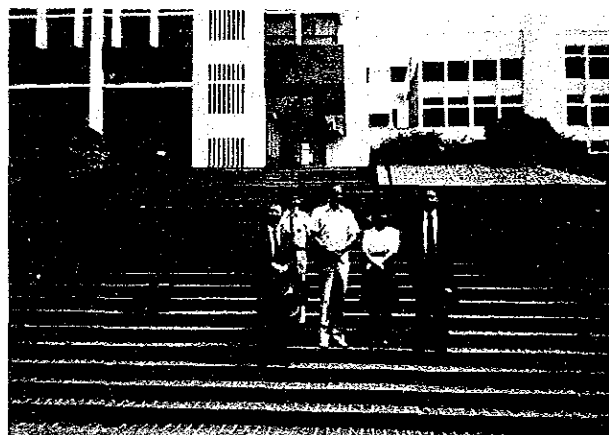
National Maritime Boardにて
帰国研修員と面談



TS "Singapore" 模擬船橋施設



TS "Singapore" 救命艇訓練施設



Singapore Polytecnic 正門にて
(中央同校Short教授)

目 次

I	巡回指導の概要	1
1.	コースの概要	1
(1)	コースの内容	
(2)	実施実績	
2.	指導班派遣の目的	3
3.	チーム編成	4
4.	日 程	4
II	調 査 内 容	6
1.	両国の現状	6
(1)	マレーシア	6
(2)	シンガポール	7
2.	帰国研修員の現状	8
(1)	受入時と現在の状況	
(2)	帰国研修員所属機関組織図	
III	研修コースに関する調査	17
1.	研修コースに対する評価	17
2.	研修成果の活用状況	17
3.	本研修分野に対する要望	17
(1)	帰国研修員の要望	
(2)	所属機関の要望	
IV	日本の船員教育行政の近況の紹介	18
V	指導班の提言	18
	参 考 資 料	21
1.	両国の船員教育機関の組織図	
2.	〃 船員教育コース	
3.	アンケート集計結果一覧	
4.	英文報告書	

I 巡回指導の概要

1. コースの概要

イ) コースの内容

本集団コースは、各国の船員教育行政及び船員教育に携わる行政官等を対象として、日本の船員行政の現状を紹介するものである。講義においては、わが国の船員教育行政の仕組み、船員教育の現状、船員に対する福祉制度及び雇用、労働問題等を主要テーマとし、見学及び研修旅行において、各種の船員教育機関を訪問することにより、船員教育の実情を見ることとなっている。研修期間は約1ヶ月間で、昭和57年度は別表1のプログラムのとおり実施された。

ロ) 実施実績

本コースは、昭和46年度に開始され、57年度現在19ヶ国85名の研修員を受入れた。内マレーシアよりは11名、シンガポールからは9名の研修員を受入れた。

46年度来の国別受入実績は、別表2のとおりである。

別表-1

昭和57年度 船員教育行政集団研修日程

月/日	曜	午 前	午 後	行 動 予 定	宿 泊
10/14	木	来	日		東 京
15	金	ブリーフィング	ブリーフィング		〃
16	⊕	休	日		〃
17	⊕	休	日		〃
18	月	オリエンテーション	オリエンテーション		〃
19	火	〃	〃		〃
20	水	〃	〃		〃
21	木	〃	〃		〃
22	金	〃	船員局挨拶		〃
23	⊕	休	日		〃
24	⊕	休	日		〃
25	月	カントリー・レポート報告会			〃
26	火	日本海運の現状(海運局)	船員行政一般(労政課)		〃
27	水	船員法概要(労働基準課)	船舶職員法概要(船舶職員課)		〃
28	木	N. Y. K. 研修所 見学		東 京 ↔ 横 浜	〃
29	金	船員教育全般(教育課)	船員教育機関(教育課)		〃
30	⊕	休	日		〃
31	⊕	休	日		〃
11/1	月	船員労働と組合(労政課)	船員災害と衛生(安全衛生室)		〃
2	火	海技試験制度(海技試験官)	東京商船大学 見学	都 内 移 動	〃
3	⊕	休	日		〃
4	木	練習船教育(航海訓練所)	船員保険福祉(社会保険庁)		〃
5	金	海難審判概要(海難審判庁)	船員雇用と失業対策(雇用対策室)		〃
6	⊕	休	日		〃
7	⊕	休	日		〃
8	月	航海訓練所練習船 見学		東 京 ↔ 横 浜	〃
9	火	清水海員学校 見学		東京→清水→名古屋	名古屋
10	水	鳥羽商船高等専門学校 見学		名古屋 → 鳥 羽	鳥 羽
11	木	(移 動 日)		鳥 羽 → 神 戸	神 戸
12	金	海技大学校 見学		神 戸 → 京 都	京 都
13	⊕	(移 動 日)		京 都 → 東 京	東 京
14	⊕	休	日		〃
15	月	船舶技術研究所 見学		都 内 移 動	〃
16	火	レポート作成	レポート作成		〃
17	水	エバリユーション	閉 講 式		〃
18	木	帰 国 準 備			〃
19	金	帰 国			〃

船員教育行政コース受入実績

年度 国別	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	計
韓 国	1		1				1						3
フィリピン	2		1			1	1			1	1		7
タイ			1							1	1		3
ヴェトナム		1											1
マレーシア		2	1	1	1	1	1	1	1	1		1	11
シンガポール		1			1	1	1	1	1	1	1	1	9
インドネシア	1			1	1	2	1	1		1	1	1	10
フィジー									1	1	1	1	4
バン格拉テシュ							1	1					2
インド			1										1
スリランカ				1									1
イラン					1	1	1	2	1		1	1	7
イラク					1								1
タンザニア					1	1			1	1	1	1	6
エジプト					2	1	2	2	2	1	1	1	11
チュニジア							1						1
象牙海岸										1	1	1	3
コロンビア									1				1
ブラジル											1		1
計	4	4	5	3	8	8	10	8	8	9	10	8	85

2. 指導班派遣の目的

本コースは開設以来12年を経過し、57年度現在85名の研修員を受入れた。この間わが国においては、海運業界の不況、船員の雇用の低迷、S T C W条約、船員制度近代化に対応するための動き、また一部途上国の海運界への進出等種々の情勢の変化があった。このような状況を踏まえ、今後本コースの研修プログラムの改善に資するため、下記により、調査・指導を行うことを目的とした。

- 1) マレーシア、シンガポール両国の船員行政、船員教育機関の現状調査
- 2) 帰国研修員の現状把握及びわが国で修得した技術知識がいかにか活かされているかについての調査

- 3) 両国における、本研修に対する要望聴取
- 4) わが国の船員教育行政の近況、特に船舶の近代化とS T C W条約に対する法制度上の対応策について紹介

3. チーム編成

運輸省航海訓練所航海科長

加藤 昭三

運輸省船員局教育課専門官

村木 宏光

国際協力事業団研修事業部研修第一課

吉崎 史明

4. 日 程

1月24日(月)	18:55	クアラルンプール着 (CX721)
		小倉書記官、荒金事務所員と日程打合せ
25日(火)	9:00~10:30	大使館及びJICA事務所訪問
	11:00~15:00	Maritime Department, Ministry of TransportとDirector-Capt. Othman Bin Daras を訪問、阿部事務所長出席
	15:00~15:30	ポートケランのコンテナバースを見学
26日(水)	8:30	クアラルンプール発
		Maritime Academy を訪問
	14:30~17:00	マラシカ市及び海峡見学、ポートディクソン泊
27日(木)	12:30	ポートディクソン発クアラルンプールへ
28日(金)	10:00~13:30	帰国研修員との打合せ
		Mr. Khanis Abu Amin (Maritime Academy), Mr. Ismail Bin Hassan (Royal Malaysia Police) 及び Mr. Nazli Bin Abd (MISC) 3名が出席
		阿部事務所長出席
1月29日(土)	10:00~12:00	Malaysian International Shipping Corporation を訪問、Mr. Mohd., Manager of Training Dept 及び元研修員
		と面談、小倉書記官、阿部事務所長同席
1月30日(日)	16:15	クアラルンプール発 (SQ107)

	17:00	シンガポール着
	18:30~20:00	竹内書記官、溝淵事務所長と日程打合せ
31日(月)	10:00~12:00	大使館、JICA事務所訪問
2月1日(火)	11:30~12:10	Marine Department, Ministry of Communication を訪問、Mr. Teh Kong Leong, Deput Director 及び元研修員 Capt. Say Eng Sin と面談、溝淵事務所長同席。
	14:00~15:00	National Maritime Board を訪問 Mr. Chua Liam Ho, Director (元国家行政コース研修員)及び元研修員 Mr. Lee Kok Kee, Deput., Director, Mr. Lee Kin Fong, Mrs. Khoo Swee Chee, Mr. Ngee Chee Keong Albert, Miss Pang Bee Guat と面談
2日(水)	10:00~14:00	Training Ship "Singapore" を訪問 Capt. M.Z. Alan, Principal of the School, Mr. Ashok Kuman Sahni, Senior Instructor, Mr. K. H. K. Rangan, Head of Engine Dept. と面談
3日(木)	10:00~12:00	Singapore Polytechnic を訪問 Mr. Khoo Kay Chai, Principal of the Polytechnic, Capt. Short, Head of Nautical Studies, Mr. B. H. Tan, Head of General Administration と面談 溝淵所長出席
	14:00~15:00	Marine Dept., Port of Singapore Authority を訪問 Capt. Khong Shem Ping, Port Master と面談
4日(金)	10:00~12:00	Neptune Orient Lines を訪問 Mr. Toh Ho Tay, Marine Personnel Dept. と面談
	19:30~21:00	オーチャドホテルにおいて帰国研修員と打合せ Mr. Chua Lian Ho, Director of NMB 他 帰国研修員6名が出席
5日(土)	9:30~12:00	JICA事務所にて帰国報告
	23:00	シンガポール発 (JL710)
6日(日)	6:00	成田着

Ⅱ 調 査 内 容

1. 両国の現状

(i) マレーシア

(i) 船員行政

船員制度は確立されておらず、現在、STCW条約の批准とも合せ制度を作るための検討が進められている。将来的には東マレーシアも含め法律を作る計画を進めている。

船員福祉関係の年金制度等についても研究中であり、日本からの専門家の派遣を強く希望している。海員組合はなく将来も組織を作ることは考えていない。

特に現在考えているのは Marine Fund (海事基金) の充実で退職者に対する補助金の支給や、船員教育機関の生徒に対する奨学金の賦与等の事業のための政府資金の導入や保険会社との提携等を計画中である。

船員数は非公式には部員 5,000 人程度であり、職員は登録制度がないため不明であり、今後実態を把握できる制度を作りたい意向である。

法律としては、1952 年の航行安全等に係る法令があるだけである。

このような状況であってマレーシアの船員行政は日本と比較して相当の隔たりがあり海運全般の行政としてわずか 11 人の職員で行っている。このため今後も行政関係の協力は必要と考えられる。

(ii) 船員教育機関〔Maritime Academy〕

1977 年に Maritime Training Center として部員教育の学校が設立されたが、1982 年 10 月より新計画に基づき Maritime Academy に昇格した。

1983 年は教育システムとして次のように計画している。

(a) 甲板部職員コース

甲板部職員コース(1年)→海上実歴(18ヶ月)→再教育(3ヶ月)→3等航海士資格試験→海上実歴(12ヶ月)→再教育(3ヶ月)→2等航海士資格試験→海上実歴(18ヶ月)→再教育(6ヶ月)→1等航海士資格試験→海上実歴(12ヶ月)→再教育(6ヶ月)→船長資格試験

(b) 機関部職員コース

3等機関士の養成はイポにある Polytechnic で行われており、当 Academy では 1 等又は 2 等機関士になるための再教育を実施しており修了すれば国家試験受験資格が与えられる予定である。

(c) 無線部職員コース

1 年 6 ヶ月の教育を受けた後、郵政省の国家試験に合格すれば 1 級又は 2 級の船舶通信士の資格が得られるようになっている。

(d) 部員養成コース

甲板部員・機関部員・事務部員の基礎コースがあり各々14週間である。なお、その他各種講習(消火・生存技術・国際電話)があり各1週間の課程で企業からの要請により受講させることとしている。

今後はリーダーシミュレーター等の講習についても実施することを考えている。

卒業生の就職は、企業がスポンサーとなっている職員は、全員就職しているが、部員養成コースの卒業生については全員就職とならず、事務部員についてはホテル等にも就職している。

現在、学校の施設の整備及び拡張を図っている。

(2) シンガポール

(i) 船員行政

船員制度については英国の法律をベースとしており、船舶職員の資格試験も英国方式に準拠している。

今後STCW条約批准のためこれに対応した教育内容を導入することを検討している。このための法律改訂についても現在作業中である。

海員組合は職員組合と部員組合の2つの組織があり、先般、組合の代表が日本に視察に来ている。

雇用制度については日本と異なり6ヶ月～1年の期間雇用制度となっている。このため生涯海上に勤務する人はまれなケースである。

福祉関係としては退職後年金が支給されるが支給される年令まで勤務する人は少なく、これらの行政にたずさわる職員は50名程度である。

Marine Department(運輸省)の外部部局としてNational Maritime Boardであり、福祉・教育・雇用・財務関係を担当している。

シンガポールにおける船員行政はマレイシアと比較し相当整備されており、特に問題にする点はなかった。

(ii) 船員教育機関

(a) Training Ship "Singapore"

当教育機関はNational Maritime Boardの訓練部門に所属し、1964年に1900総トンの商船を購入し、120名の生徒を収容できる訓練施設に改装、部員教育を実施し現在まで5,000名以上の卒業者を出した。

船の耐用年数が限界となったため、現在の陸上施設を1977年に建設し教育を行っている。

教育課程は甲板科・機関科・司ちゅう科の3科があり、これらの教育課程は、参考資料のとおりである。

生徒の就職についてはChief Steward Course, Second Cook Course, Watchkeeping Engineer Courseは船会社が学費負担をしており全員就職をしている。Pre-sea

Course については1ヶ月以内に就職が決定している。これらの生徒募集については会社と協議の上、入学者を決定している。その他の Course の卒業生は Marine Department が就職先の紹介を行っているが、全体として80～85%程度の就職率となっている。

将来計画としては消火訓練のための施設を建設することとしており、現在は海軍の協力により、この訓練を実施している。学校の施設・教材ともかなり充実している。

卒業後の待遇については、甲・機部員は5年乗船して1,600～1,800 S \$ /月となっており、司ちゅう科については800～1,600 S \$ /月程度である。

(b) Singapore Polytechnic

職員養成のための教育を行っており、基本的にはイギリスの方式を導入している。

教育課程は船員教育関係として Dept of Nautical Studies (甲板部職員養成・船舶通信士養成) 及び Dept. of Marine Engineering (機関部職員養成) の2科がある。

入学するためには General Certificate of Education Ordinary Level (GCE 'O' Level) の筆記試験に合格すること、厳しい身体検査に合格すること、船会社がスポンサーになっていること(船舶通信士は船会社のスポンサーは必要としない)等である。

練習船はなく海岸にある模擬訓練船で行っている。Dept of Nautical Studies の学校における教育はまず5ヶ月間であり、この間座学と実習はほぼ半々である。その後2年間の社船による乗船実習を行うが、この間通信教育を受けることになっており、所定の実習報告書及び航海日誌を提出させることとなっている。

乗船実習後、再び当校において6ヶ月の訓練を受けることとなるが、これらの課程を修了すると2等航海士の受験資格ができる。その後18ヶ月の乗船履歴と6ヶ月の当校における教育を受ければ1等航海士の受験資格が、又2年間の乗船履歴の後、当校で6ヶ月の教育を受けて Master の受験資格が得られるようになっている。

Dept. of Marine Engineering では、3年間の当校での教育の後1年間の乗船履歴を経て2等機関士の受験資格が得られるようになっている。

船舶職員の試験は Marine Dept. で行っている。

船舶通信士の教育は当校における2年間の教育を受けた後、Telecommunication Authority が実施する試験に合格すれば資格を得ることができる。

教育内容・施設・機材は充実しており、今後もさらにこれらを充実強化する計画をもっている。

2. 帰国研修員の現状

(1) 受入時及び現在の状況

研修員受入時と現時点での地位、所属先は別表3、4のとおりである。マレーシアについては11名中2名は受入時の所属先を退職し、現在は当該分野に従事していない。シンガポールは、

9名中8名が元の所属先を退職している。しかしながら転職が頻繁に行われる両国の現状から見れば、これは予想外に良い定着率ではないかと思われる。

(2) 帰国研修員所属機関組織図

帰国研修員の所属先組織図及び各帰国研修員の当該機関の中における地位関係を別表5～9に示す。特にシンガポールのNational Maritime Boardでは、Deputy Director 以下主要ポストに帰国研修員が活躍していることが目立つ。

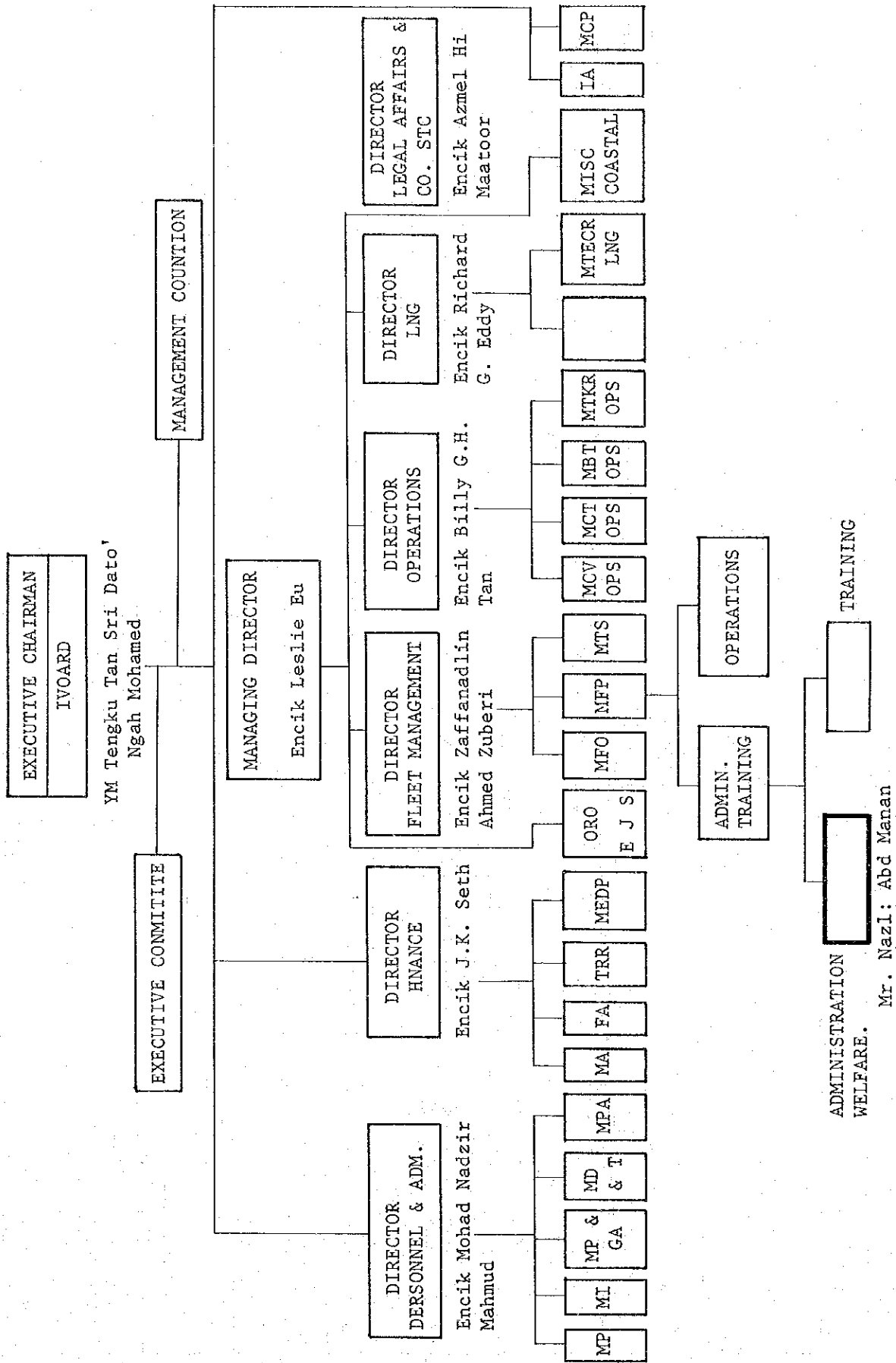
List of Ex-Participants (Singapore) in the Course of Administration for Seamen's Education

No.	Year of participation	Name	Position at the time of participation	Present Position (January 1983)
1	1972	Mr. Eng Sin Say	Senior Marine Surveyor, Marine Department	Senior Assistant Director, Marine Department, Ministry of Communication
2	1975	Mr. Kin Fong Lee	Assistant Secretary, Training Division, National Maritime Board	Senior Assistant Director, Training & Welfare Divisions, National Maritime Board
3	1976	Mr. Neng Pin	National Maritime Board Executive Officer	—
4	1977	Mrs. Khoo Swee Chee	Assistant Director (Secretariat), National Maritime Board	Assistant Director, Employment Division, National Maritime Board
5	1978	Mr. Chan Wah Hay	National Maritime Board Training Division Chief Engineer	—
6	1979	Mr. Albert Ng Chee Keong	Manager, National Maritime Board	Assistant Director, Mariners' Club, National Maritime Board
7	1980	Mr. Lee Kok Kee	Deputy Director, National Maritime Board	Deputy Director, National Maritime Board
8	1981	Miss Yeo Ngoh Kim	Assistant to Director of General Affairs, National Maritime Board	—
9	1982	Miss Pang Bee Guat	National Maritime Board	Head of Administration, Training Division, National Maritime Board

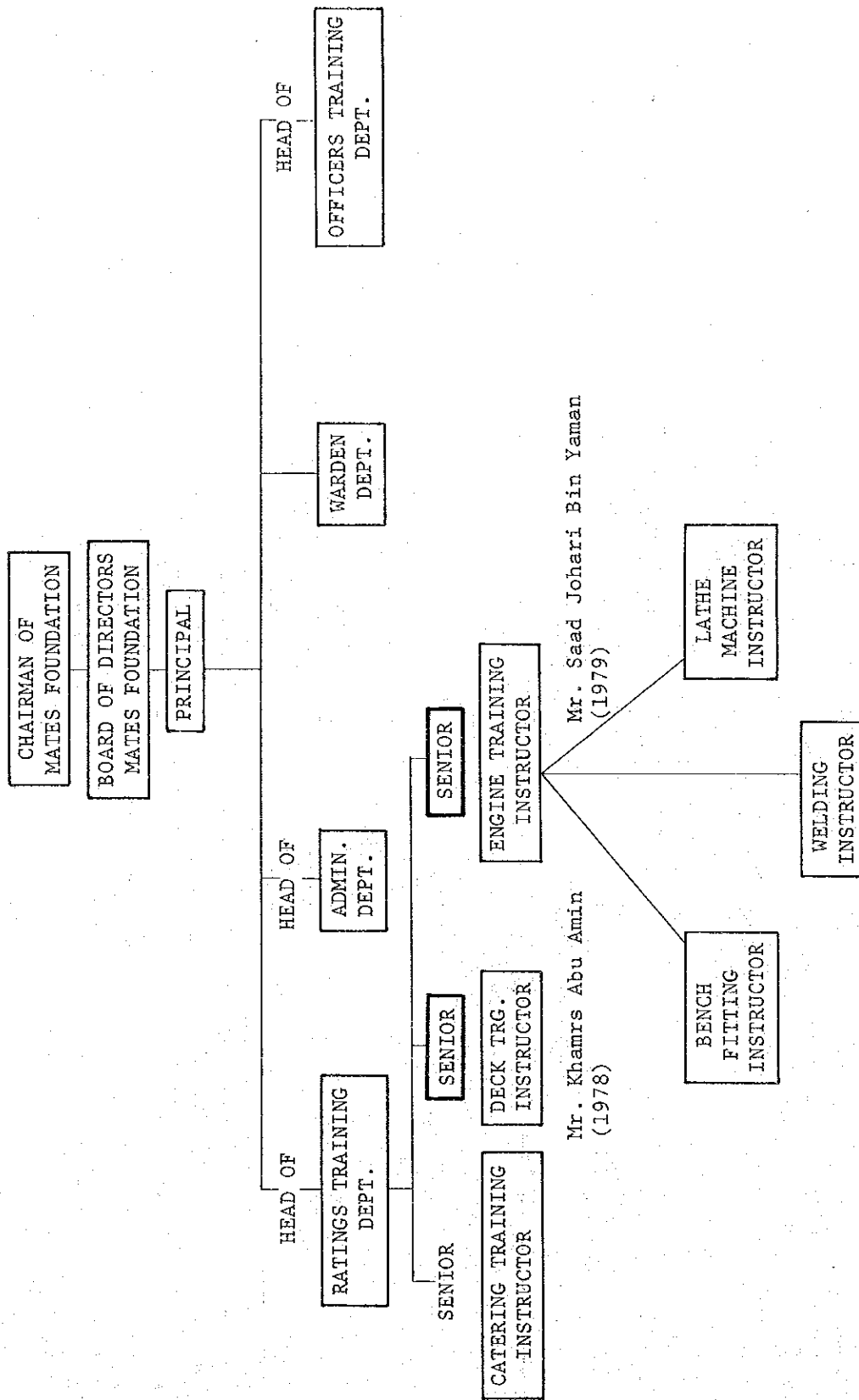
List of Ex-Participants (MALAYSIA) in the Course of Administration for Seamen's Education

No.	Year of participation	Name	Position at the time of participation	Present Position (February 1983)
1	1972	Mr. Mohd Jamil Bin Yahya	Assistant Superintendent, Malaysian International Shipping Corporation	Marine Department, Ministry of Transport
2	1972	Mr. Mohd Tahir Bin Abdul Hamid	—	—
3	1973	Mr. Baharin Bin Jamal	Boarding Officer, Malaysian International Shipping Corporation Berhad (MISC)	Executive, Fleet Operations, Malaysian International Shipping Corporation
4	1974	Mr. Othman Bin Merican	Asst. Manager, Malaysian International Shipping Corporation	—
5	1975	Mr. Syed Abu Bakar Bin Syed M.	Assistant Marine Suptdt., Malaysian International Shipping Corporation	Senior Executive, Fleet Operations, Malaysian International Shipping Corporation
6	1976	Mr. Albert Devasagayan John	Crew Officer, Malaysian International Shipping Corp.	Malaysian International Shipping Corporation
7	1977	Mr. Abdul Karim Ismail	Malaysian International Shipping Corporation	—
8	1978	Mr. Khamis Abu Amin	Warden/Senior Deck Instructor, Maritime Training Center	Warden/Senior Deck Instructor, Maritime Academy
9	1979	Mr. Saad Johari Bin Yaman	Senior Marine Engineering Instructor, Maritime Training Centre	Senior Engine Training Instructor, Maritime Academy
10	1980	Mr. Ismail Bin Hassan	Deputy Superintendent, Marine Police, Royal Malaysia Police	Deputy Superintendent, Marine Police, Royal Malaysia Police
11	1982	Mr. Nazli Bin Abd Manan	Administration Executive, Malaysian International Shipping Corporation	Administration Executive, Malaysian International Shipping Corporation

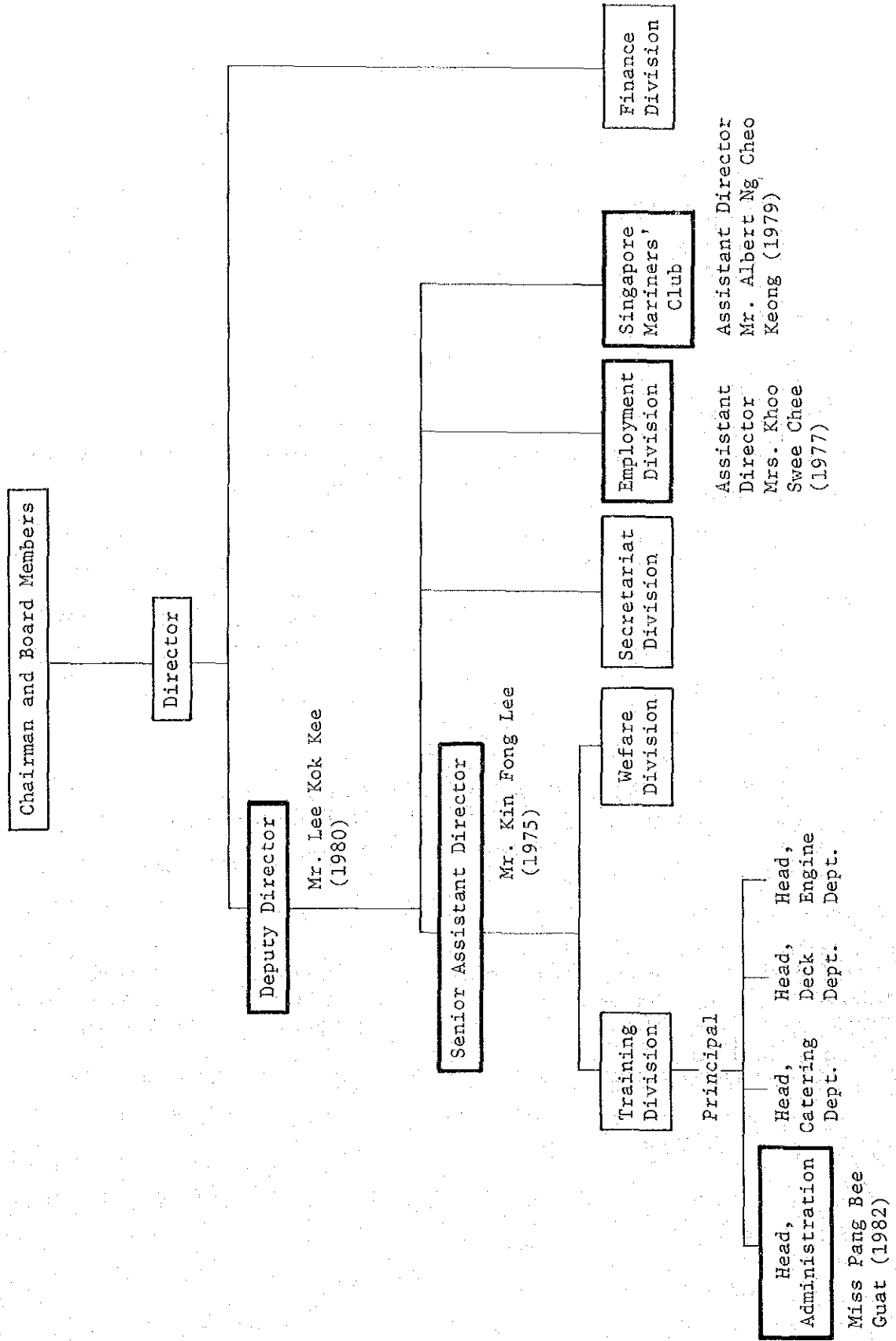
マレイシア Malaysian International Shipping Corporation 組織図



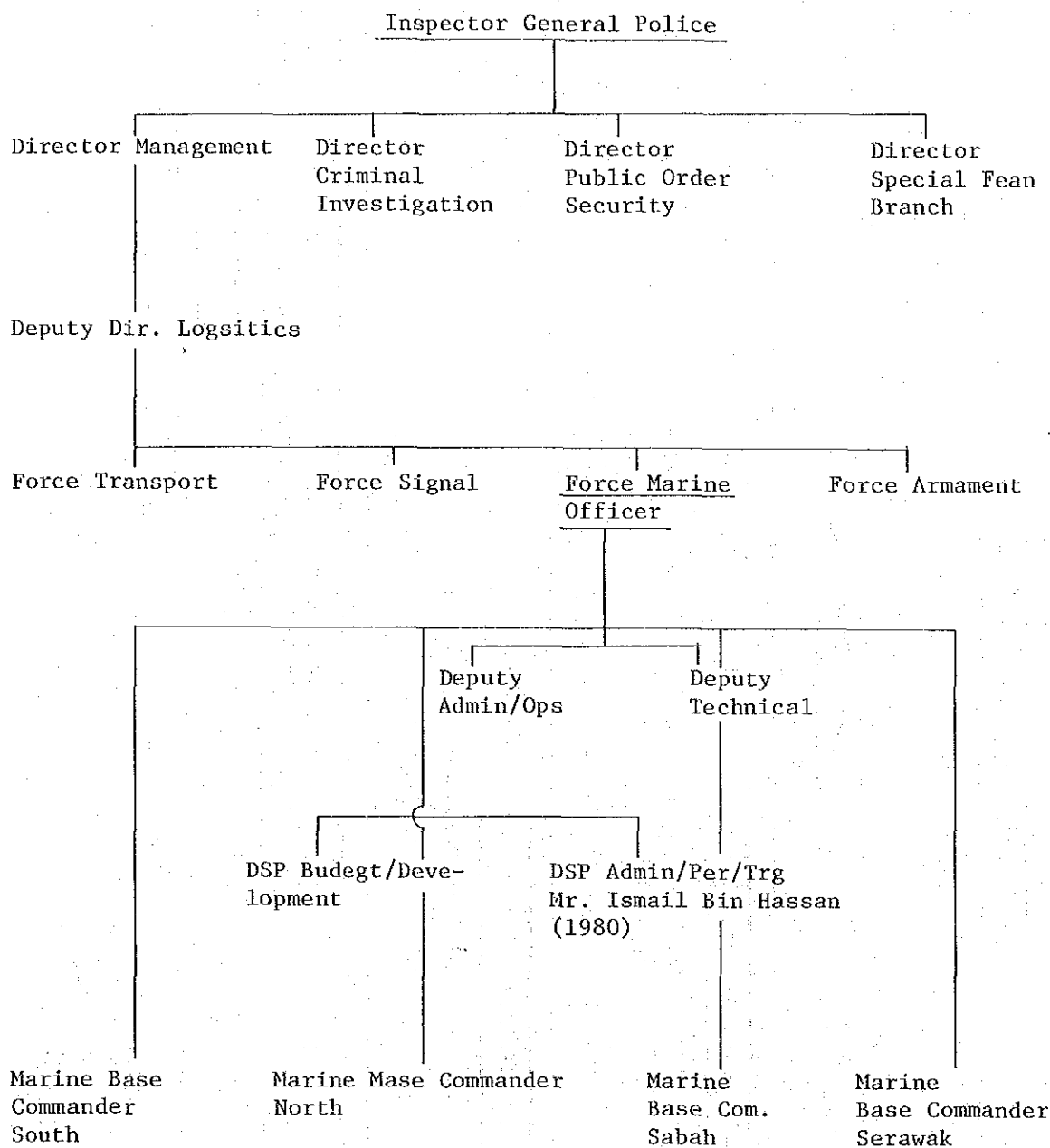
マレイシア Maritime Academy 組織図



シンガポール National Maritime Board 組織図



マレーシア Marine Branch, Royal Malaysia Police 組織図



III 研修コースに関する調査

1. 研修コースに対する評価

総体的に研修コースに対する評価は良好であったが、特にシンガポールにおいては非常に高く評価していた。

たゞ、今回の調査で、両国間でその対応に極端な差が認められたのが印象的であったが、これは夫々の国情や地理的条件も影響していると思われ、研修員の派遣機関が両国間に明確な差があること、研修員の期待したものと、研修内容とに差があったためと思われるが、これに対しての方策は「指導班の提言」で述べることにする。

研修内容別に見ると、殆んど全ての参加者が船員教育機関の見学が最も有効であったと述べており、その他数名の者が船員行政（雇用、福祉、給与）の講義、カントリーレポート等が有効であったと認めている。

2. 研修成果の活用

研修参加者は船員教育訓練、雇用、福祉それぞれの分野で本研修の成果を有効に活用している。Royal Malaysia Police からの研修員についても、水上警察職員の教育訓練計画の策定に本研修コースで得られた知識を有効に活用していた。

3. 本研修分野に対する要望

(1) 帰国研修員の要望

質問書に対する回答、研修参加者との会合等から得られた要望をまとめて見ると次の通りである。

- オリエンテーション期間は3日に短縮可能、短縮した期間を見学旅行の充実にあてる。
- 教育訓練施設の見学は単なる見学だけでなく、施設での宿泊を含め、教育訓練現場を見学し、当該者間での教育訓練技法等についての意見の交換等も行いたい。
- 講義については、講師は英語で行うべきである。通訳を使うときは、通訳は同じ所属機関の人が望ましく、同じ所属機関の人が得られないときは、課題について十分な知識のある人を使うべきである。
- 英文の参考印刷物をさらに多く用意すべきである。
- 期間は6週間とし、追加の1週間は日本国内港間の航海での体験乗船を希望する。
- 研修参加者との関係をさらに深めるべき活動が欲しい。

又フォローアップ、アフターケアについては、

- 最新の日本の海運関係の印刷物、情報が欲しい。
- J.I.C.A.の周期刊行物が欲しい（メールリストの整備）
- さらに上級の研修コースの情報が欲しい。
- 船員教育のための新しい教材の情報が欲しい。

。 Maritime Academy に必要とする船員教育のためのコースが欲しい。

等の意見があった。

(2) 所属機関等の要望

シンガポールに於いては研修に満足しており、特にとりたてゝの要望はなかったが、マレーシアに於いては本研修に職員を派遣するのが最も適当な機関と思われる Maritime Department の局長が本研修の存在を知らず驚かされた。同局長からこうした information は是非流して貰いたいとの要望があったが、適切な関係先に情報が届くような措置と配慮が必要である。なお、次回研修には Maritime Department から研修員を派遣するとのことであった。

IV 日本の船員行政の近況の紹介

わが国の船員行政の近況を紹介するため「船舶職員法改正の概要」及び新たに改正された船員法、船舶職員法の英訳資料を準用し、両国の関係機関、帰国研修員に配布し説明及び意見の交換を行った。両国とも STCW 条約に対応し、これから法規を整備する途上にあり、わが国の対応に非常に関心を示した。特にマレーシアの Maritime Department、シンガポールの Marine Department 等の行政部門では、是非とも今後の参考にしたいと述べていた。

V 指導班の提言

昭和46年からスタートした船員教育行政コース(Group Training Course in Administration for Seamen's Education) は今年で12年目を迎え、今迄に85名の研修受入実績があり、受入対象国は東南アジア地域58%、オセアニア5%、中近東地域24%、アフリカ地域11%、中南米地域2%となっている。今回の調査では研修参加者の多いマレーシアとシンガポールを訪問し、関係機関及び研修参加者と意見の交換を行うと共に、現地の施設を見学、併せて船員教育行政の実態を視察した結果、当研修コース事業の向上発展のために次のように提言する。

1. 適切な派遣元の選択について

現在実施されている本コースの内容には、船員教育行政だけでなく船員福祉、雇用、資格、労働等船員行政一般が含まれており、海運局、船員局、社会保険庁、海難審判庁、民間会社、船舶技術研究機関及び船員教育機関等多種多岐に亘り、定められた期間内で全てを消化するには研修員には各項目共さわりだけで終わってしまう印象は拭い切れないものがある。研修員の所掌業務が船員行政一般に関係する場合は、本研修はそれなりに大きな成果を上げられるものの、そうでない場合には、不必要な講義、見学が多いとか、突込んだ研修ができなかったという不満が生ずる。

シンガポールに於いては、派遣元が National Maritime Board からの派遣者が殆んどであって他の1名も Marine Department からであって、彼等の当面する業務と本コースとは適合しており、適切なコースであったと評価している。

反面、マレーシアに於いては、国策海運会社である M I S C からの派遣者が80%であって、船員の労務管理、自社船員の訓練面から、研修に対してまあまあの評価をしているようであるが、Maritime Academy からの派遣者は、船員教育訓練そのものに研修内容を求めており、かなり強い不満があった。又Ⅲ-3-(2)に記したように、Maritime Department は船員行政一般も所掌する機関であるが、当局からの研修参加者は1名もなく、本研修コースの存在も今回の訪門で初めて知ったような実情である。

各国それぞれの国内事情があるものと推察されるが、適切な機関から研修員が派遣されるような情報の提供なり配慮が必要と思われる。

2. 研修コース名称について

本研修コース名は、Group Training Course in Administration for Seamen's Education であるが、内容は船員教育行政だけでなく船舶職員資格、労働基準、福祉、雇用、保険等と多岐に亘る内容を包含している。

コース名称から船員教育の研修にポイントを当て、参加した者には不要な講義内容が多く、教育訓練面では精深さに欠けるといふ不満が残る。

本コースの研修はそれなりの実効が上っているものと思われるので、不要な誤解を生ぜしめないためにコース名称の変更が望ましい。

3. 船員教育専攻コースの新設について

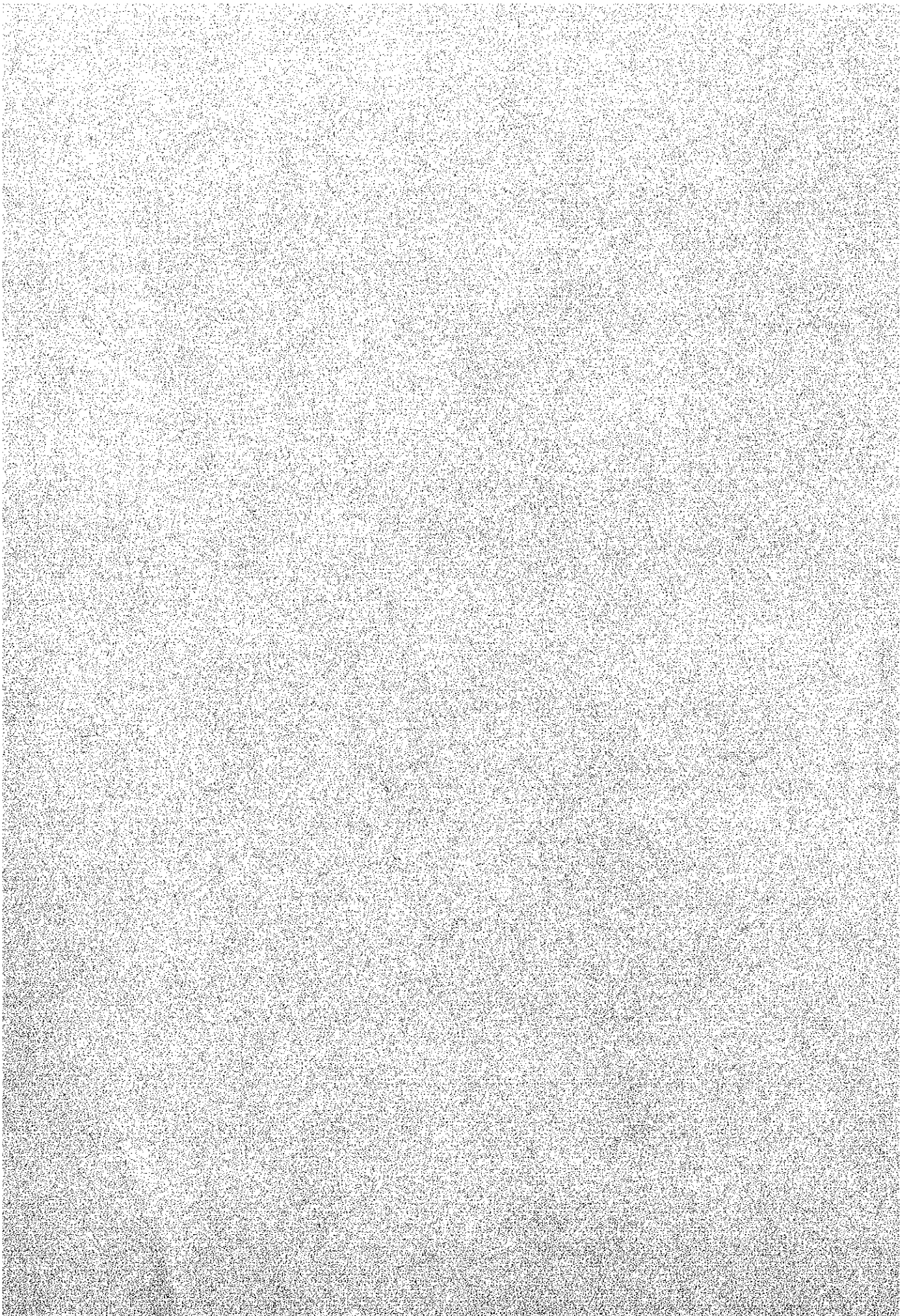
1978年の船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約 (International Convention on Standards of Training, Certification and Watchkeeping for Seafarers, 1978) の制定に伴い、各国共その条約批准のための、船員の教育訓練を充実しようとして活発な動きが見られる。

マレーシアに於いては昨年 Maritime Training Centre を Maritime Academy に昇格させ、従来部員教育だけ実施していたものを、職員教育についても実施しており、シンガポールにおいても部員教育、職員教育とも施設、設備を拡充、強化して船員教育を充実させようとする熱意がうかがわれる。

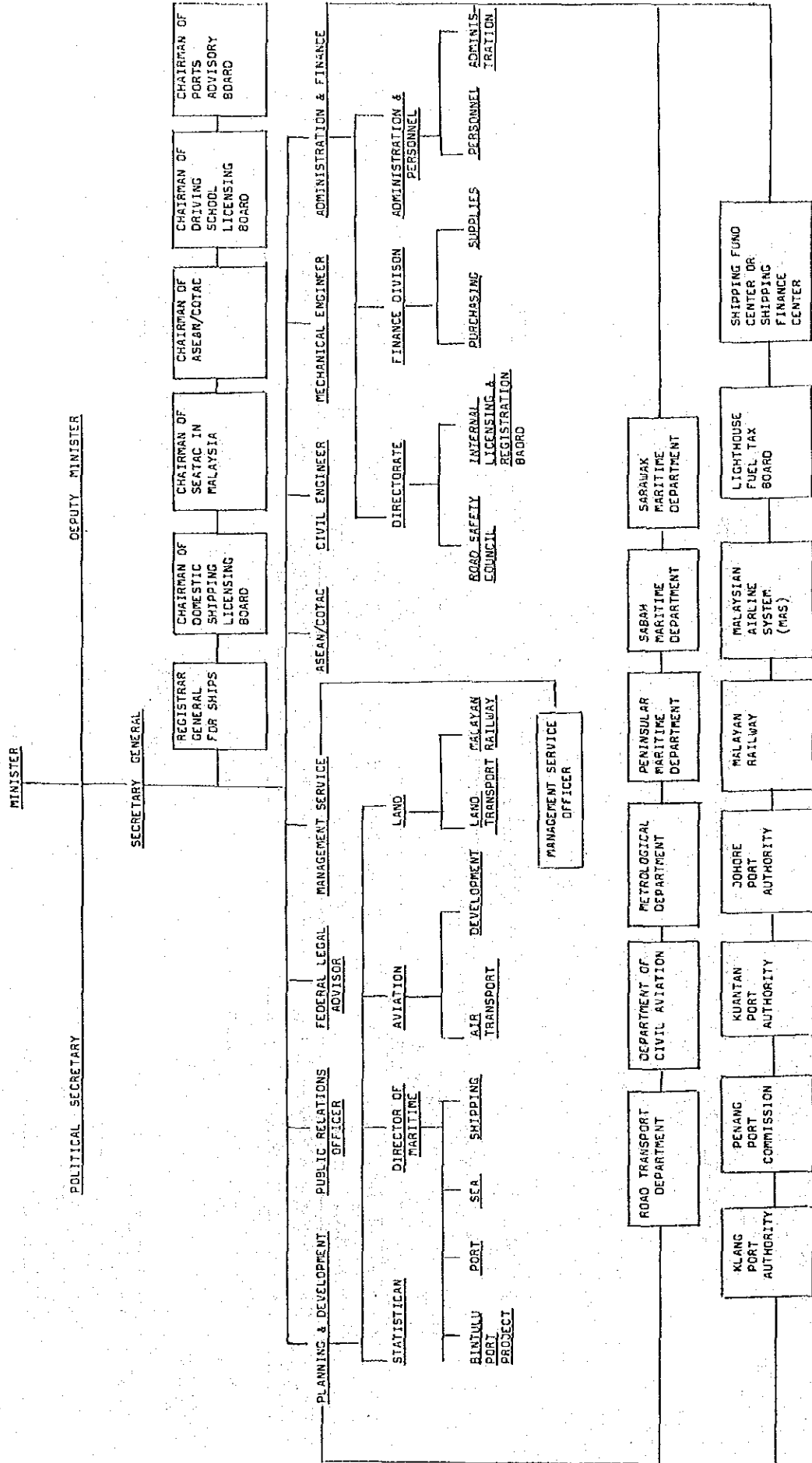
研修参加者の発言あるいは質問書に対する回答にもそうした船員教育そのものに対する情報の交換、研修要望が相当に強く、今後もそうした傾向は増加することが予想されるので、日本の船員教育機関における教育現場での体験、教官相互間の教育問題、技法等に関する意見の交換等を含めた、船員教育専攻の研修コースの新設が望まれる。

(財政事情等から新設が無理な場合には、現コースの中で隔年等適当な時期に、船員教育に重点をおいたコースを設けることも一方法であろう)

参 考 资 料

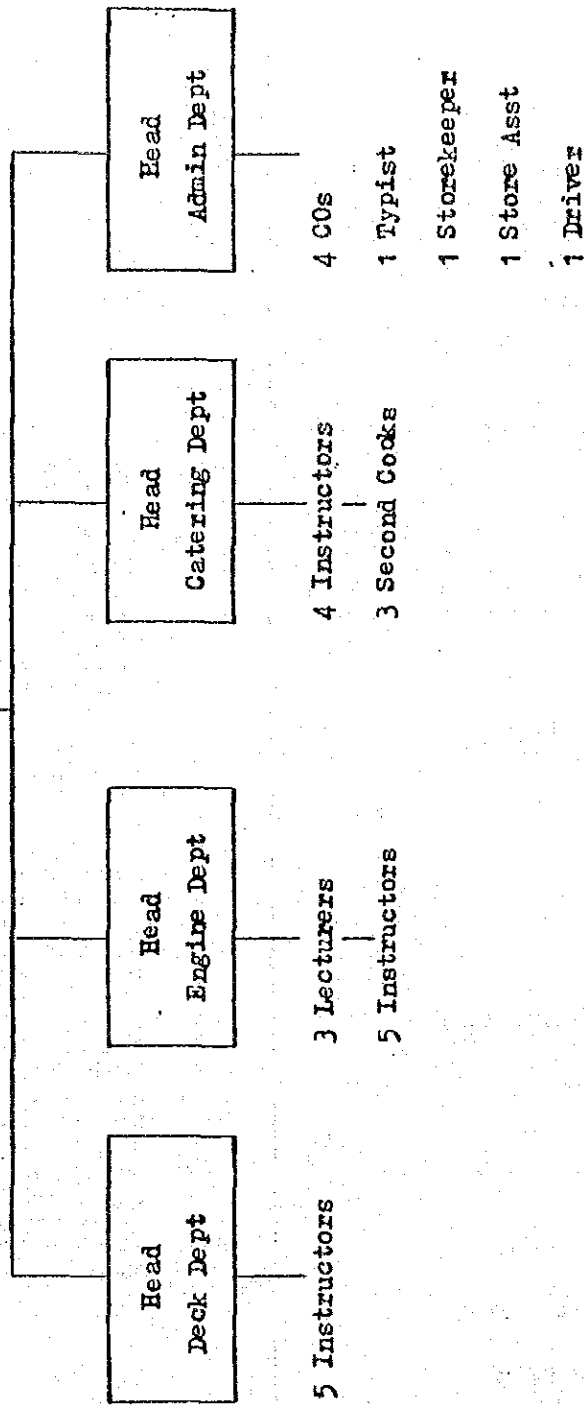


マレーシア Ministry of Transport 組織図



TS "Singapore" 組織

Principal



Total 33 Staff

マレイシア Maritime Academy 1983年度実施コース

COURSES	PORPOSED DATES OF COMMENCEMENT
<u>PRE-SEA COURSE</u> Pre-Sea Deck	Feb 28th, July 18th, Nov 7th
<u>MARINE RADIO COMMUNICATION</u> Marine Radio	July 18th
<u>BASIC RATINGS</u> Basic Deck Basic Eng'ng. Basic Catering	Feb 28th, July 18th, Nov. 7th " "
<u>MODULAR</u> Basic Personal Survival at Sea	Feb 21st March 7th, 21st April 4th, 18th May 9th July 18th, 15th August 1st, 15th September 5th October 10th, 24th November 14th, 28th December 19th
Proficiency in Survival Craft	February 7th, 28th March 14th, 28th April 11th, 25th May 16th July 25th August 8th, 22nd September 26th October 17th November 7th, 21st December 5th
Basic Fire-Fighting at Sea	February 7th, 21st, 28th March 7th, 14th 21st, 28th April 4th, 11th, 18th, 25th May 9th, 16th July 18th, 25th August 1st, 8th, 15th, 22nd September 5th, 26th October 10th, 17th, 24th November 7th, 14th, 21st, 28th December 5th and 19th
Basic First aid at Sea	Same as 4.3
Automatic Radar-Plotting Aids	Same as 4.3
Radio Telephony Restricted	Same as 4.3

COURSE	PROPOSED DATES
Radar Observer	March 7th April 11th July 18th August 8th October 3rd, 24th November 28th
Radar Operational	February 21st March 28th May 3rd June 13th, 28th August 29th September 20th November 14th December 19th
Electronic Navigation Aids	February 21st March 7th, 21st April 4th, 18th May 3rd, 16th June 6th, 20th July 18th August 1st, 15th, 29th September 20th October 3rd, 17th, 31st November 14th, 28th December 12th
<u>PREPARATORY COURSE (ENGINE AND DECK)</u>	
2nd class Part B Marine Engineering	February 28th, July 18th November 7th
2nd class Part A Marine Engineering	July 18th
1st class Part B	Same as 5.2
1st class Part A	Same as 5.2
3rd Mate	February 28th, July 18th, November 7th
2nd Mate	Same as 5.5
1st Mate	July 18th, November 7th
Master Mariner	Same as 5.7

シンガポール TS "Singapore" における研修コース

<u>Catering Department</u>		<u>Duration</u>
1	Pre-Sea Catering Course	16 weeks
2	Second Cook Course	6 weeks
3	Chief Steward Course	6 weeks
4	Chief Cook Course (Proposed)	6 weeks
 <u>Deck Department</u>		
1	Pre-Sea Ratings	16 weeks
2	Re-Training Course	5 weeks
3	Proficiency In Survival Craft Course	1 week
4	Fire-Fighting Course conducted at TS jointly by NMB and Republic of Singapore Navy	4 days
5	Efficient Deck Hand Course	2 weeks
6	'First Aid At Sea' Course conducted by St John Ambulance Association	8 days (2 hours per day)
7	Orientation Course (For Direct Registration)	3 days
 <u>Engineroom Department</u>		
1	Watchkeeping Engineer Course for Class 5 Certificate	1 year
2	Pre-Sea Ratings Course	16 weeks
3	Preparatory Course for Class 3 and Class 4 Certificates (Proposed)	8 weeks
4	Re-Training Course for Greasers	5 weeks
5	Welding Course (Proposed)	1 week
6	Tanker Safety Course	1 week
 <u>Examinations</u>		
1	Efficient Deck Hand Examination.	
2	Proficiency In Survival Craft Examination conducted by Marine Department at TS "Singapore".	
3	All pre-sea courses, re-training courses and fire-fighting course have examination at the end of the course.	

TS "Singapore" における研修実績

Comparative Table of Examined Courses Conducted by TS "Singapore"

	FY 79/80			FY 80/81			FY 81/82		
	Joined	Dropped Out/ Failed	Passed Out	Joined	Dropped Out/ Failed	Passed Out	Joined	Dropped Out/ Failed	Passed Out
1 Pre-Sea Rating Courses									
(a) Deck	291	64	227	75	13	62	—	—	—
(b) Engineroom	35	7	28	86	10	76	—	—	—
(c) Catering	107	43	64	85	22	63	64	2	62
Sub-Total	433	114	319	246	45	201	64	2	62
2 Watchkeeping Engineer Course	—	—	—	—	—	—	35	2	33
3 Retraining Courses									
(a) Deck	—	—	—	—	—	—	306	8	298
(b) Engineroom	—	—	—	—	—	—	192	6	186
Sub-Total	—	—	—	—	—	—	498	14	484
4 Second Cook Course	—	—	—	8	1	7	35	—	35
5 Chief Steward Course	—	—	—	6	—	6	27	1	26
6 Proficiency In Survival Craft Course									
(a) TS Trainees	—	—	—	—	—	—	38	8	30
(b) Registered Seamen & Others	—	—	—	—	—	—	41	26	15
(c) RSN Personnel	—	—	—	—	—	—	35	19	16
Sub-Total	—	—	—	—	—	—	114	53	61
7 Efficient Deck Hand Course	239	139	100	62	17	45	242	107	135
8 Lifeboatman Course									
(a) TS Trainees	322	168	154	201	104	97	55	17	38
(b) Registered Seamen & Others	27	13	14	45	26	19	41	22	19
(c) RSN Personnel	—	—	—	66	37	29	27	11	16
Sub-Total	349	181	168	312	167	145	123	50	73
9 Basic Fire Fighting Course									
(a) TS Trainees	—	—	—	—	—	—	74	1	73
(b) Registered Seamen	—	—	—	—	—	—	175	5	170
(c) RSN Personnel	—	—	—	—	—	—	285	96	189
Sub-Total	—	—	—	—	—	—	534	102	432
Total	1021	434	587	634	230	404	1672	331	1341

Note * These were trainees who attended the former 12-week General Purpose Pre-sea Course. This course has been superseded by the 16-week Pre-sea Deck and Engineroom Courses since March 1980.

Comparative Table of Non-Examined Courses Conducted by TS "Singapore"

	FY 79/80			FY 80/81			FY 81/82		
	Joined	Absent	Completed	Joined	Absent	Completed	Joined	Absent	Completed
1 Personal Survival Course									
(a) TS Trainees	456	—	456	201	—	201	24	—	24
(b) Registered Seamen	93	—	93	13	3	10	—	—	—
Sub-Total	549	—	549	214	3	211	24	—	24
2 Orientation Course	186	36	150	67	21	46	11	—	11
3 Basic Tanker Safety Course	—	—	—	—	—	—	190	—	190
Total	735	36	699	281	24	257	225	—	225

Comparative Table of Trade Tests Conducted by TS "Singapore"

	FY 79/80			FY 80/81			FY 81/82		
	Tested	Failed	Passed	Tested	Failed	Passed	Tested	Failed	Passed
Trade Tests									
(a) Crewcooks	57	23	34	19	3	16	1	1	—
(b) 2nd Cooks	18	11	7	5	2	3	1	—	1
(c) Bandaries	21	6	15	8	3	5	5	1	4
Total	96	40	56	32	8	24	7	2	5

シンガポールにおける船員登録実績

Registered Seamen Employed At Sea Under
Registry Of Ships As At 31 March 1982

Registry of Ships	Number Employed		
	Foreign-Going	Home/Local	Total
America	19	18	37
Australia	3	2	5
Bahamas	1	—	1
Britain	156	1	157
Denmark	140	11	151
Hongkong	45	—	45
Honduras	—	1	1
Indonesia	—	2	2
Japan	—	4	4
Liberia	6	—	6
Malaysia	5	16	21
Norway	138	—	138
Panama	29	28	57
Singapore	2723	615	3338
Sweden	5	—	5
Total	3270	698	3968

Seamen At Sea

As at End of Financial Year	1977/78	1978/79	1979/80	1980/81	1981/82
Home/Local Trade	1688	1460	1106	807	698
Foreign-Going Trade	4486	4822	4148	3308	3270
Total	6174	6282	5254	4115	3968

アレンケータ調査結果一覧

	シ	ン	ガ	ポ	ル	マ	イ	シ	ア
	Mr. Say Eng Sin (1972) 直接はない。	Mr. Kin Fong Lee (1975) 研修、見学、研修員間の交流	Miss Lam Siew (1977) 教育、雇用、福祉面のプログラムが有益だった。	Mr. Albert Chee Kong (1979) 全体的に有益であった。	Mr. Lee Kok Kee (1980) 全体的に有益であった。	Miss Fung Bee Chai (1982) 教育機関の見学	Mr. Khani Abdul Amin (1978) 消水海員学校、NYK、練習船の見学	Mr. Ismail Bim Hassam (1980) 教育、行政についての講義及び見学	Mr. Na li Bin ABE Maman (1982) 企業の船員福祉と教育
(1) コースプログラムで最も有益であった部分		日本の制度の理解は、帰国後の仕事にプラスになった。また他の研修員との交流も有益であった。	コースで得られた知識は、自分での業務遂行にプラスになった。	日本の教育制度をより深く理解できた。	日本の教育制度をより深く理解できた。	知識、経験を広めることが出来た。これを将来の自分の業務に活かしたい。	mimiderrick, sra li Marnal 等の訓練技術の導入	水上警察に全般的に適用は出来ないが、徐々に新しい教育計画を企画しつつある。	船員の訓練と福祉の向上のため活用したい。
(2) 研修結果をどうのようかしているか	あった	あった	あった	あった	あった	知識を深めることが出来た。	知識、経験を得られたこと	非常に有益であった	あった
(3) 自己の昇進等に	ない	あった	あった	あった	あった	知識を深めることが出来た。	知識、経験を得られたこと	非常に有益であった	あった
(4) 期間及び時期	特になし	10～11月でよい。	十分である	特になし	特になし	5週間丁度よい。冬季を除き何時でもよい。	特になし	特になし	適当である。
(5) カリキュラム	"	"	"	"	"	全体として良いが、より見学に日数を割いて欲しい。	"	"	"
(6) 研修員数	"	"	"	"	"	8～10名程度が理想的である。	"	"	"
(7) 施設教材	"	"	"	"	"	扱っている。	"	"	他の研修員との交流の機会も欲しい。
(8) 言葉	"	"	"	"	"	時間のロスが少なくなるため講師がもつと英語を話すことが望ましい。	"	"	通訳は講師と同じ機関から派遣するか要員に精通した人材を選ばなければならない。
(9) その他	"	もっと多くの英文の文献を提供して欲しい。	"	"	"	コースは大変有益であった。カンボジアの状況を知られて欲しい。	船員学校に1日出席し、教育の実情をもっと詳細に見たい。	"	"
研修の成果について		日本の海運の最新情報の提供。また当機関に有益な他の関連コースについての情報提供	研修コースをやって欲しい。	JICAの定期刊行物を送って欲しい	特になし	日本の海運事情についての最新情報を送って欲しい。	新しい教育教材についての情報提供	船舶機関に関する各種の式簿類を助	定期刊行物を送りたい。海上保安庁での研修の機会が得られれば大変有益である。
研修プログラム改善についての意見									日本の民間船会社での研修、当社の費用負担でもよい。
アンケート									

Dear Sir

It is a great pleasure for me to submit to you herewith a summary report by the Technical Follow-up Team for the Ex-participants of the Group Training Course in Administration for Seamen's Education.

Through meetings and discussions, we have received opinions and suggestions from the authorities concerned and ex-participants.

Those suggestions are very useful for us in making further improvement of our training programme.

We were delighted to see ex-participants actively engaged in their respective work.

On behalf of the team I would like to thank all the officers concerned and ex-participants for extending close cooperation and suggestion during our stay in Singapore.

Sincerely yours,

Shozo Kato

Technical Follow up Team

Summary Report by the Technical Follow-up Team for
Ex-participants of the Group Training Course in
Administration for Seamen's Education.

1. Introduction :

The Group Training Course in Administration for Seamen's Education has been conducted by the Government of Japan as part of its Technical Cooperation Programme since 1971 in order to introduce to the Course Participants the present situation of administration and educational system for seamen in Japan.

On January 30, 1983, the Japan International Cooperation Agency dispatched a team to Singapore for the purpose of following up the result of the course.

2. Team Members of the Team :

Mr. Shozo Kato : Chairman of Navigation Department Institute of Sea Training,
Ministry of Transport

Mr. Hiromitsu Muraki : Special Assistant to the Director of the Division,
Educational Division, Bureau of Seafarers,
Ministry of Transport

Mr. Fumiaki Yoshizaki : Member of the First Training Division, Training Affairs
Department, Japan International Cooperation Agency

3. Period :

From January 30 to February 5, 1983 (Itinerary is attached.)

4. Objectives :

- (1) to conduct a survey on the Post-training activities of ex-participants and to get opinions and suggestions for improving the course from them as well as from the authorities concerned,

- (2) to study the present situation of seamen's administration in Singapore in order to meet the needs in our future programme,
- (3) to inform the ex-participants of up-to-date information on administration for seamen in Japan.

5. Summary of the activities

(1) Visit to Marine Department (Ministry of Communication)

We met Mr. Teh Kong Leong, Deputy Director of Marine Department and Capt. Say Eng Sin, a first participant in the course. They gave us an outline of administrative structure, educational system and welfare activities for seamen in Singapore. As to the STCW Convention, they told us that they had been introducing a new educational system and preparing to revise their laws for seamen.

(2) Visit to National Maritime Board

We met Mr. Chua Lian Ho, Director of the Board and ex-participants Mr. Lee Kok Kee, Deputy Director, Mr. Lee King Fong, Mrs. Khoo Swee Chee, Mr. Ngee Chee Keong Albert and Miss Pang Bee Guat. Director himself is the ex-participant of the National administration course. We received heartfelt welcome from them all. They explained to us the functions and educational systems of the Board. They told us that the training course was very useful and further cooperation was needed particularly in the latest technics such as fire-fighting.

(3) Visit to Training Ship " Singapore "

Miss Pang Bee Guat joined us on the visit. We met Capt. M.Z. Alan, Principal of the school, Mr. Ashol Kumar Sohni, Senior Instructor and Mr. K.H. K. Rangan, Head of Engine Department. They explained to us details of their curricula and showed us their facilities.

(4) Visit to Singapore Polytechnic

We met Mr. Khoo Kay Chai, Principal of the Polytechnic; Capt. Short, Head of the Nautical Studies; Mr. B. H. Tan, Head of General Administration; and Mrs. Mary Tan, Assistant Public Relations Officer. They explained to us their courses and curricula in detail for officers' training.

We exchanged views on the educational systems in both countries. In addition, they showed us their educational facilities.

(5) Visit to Marine Department (Port of Singapore Authority)

We paid a courtesy call on Port Authority Master Capt. Khon Shen Ping and Capt. Wilson Chua, Hydrographer.

(6) Visit to Neptune Orient Lines Ltd.

We met Mr. Toh Ho Tay, Manager of Marine Personnel Department and Capt. A. C. S. Ezekiel. They explained to us the outline of their company and their Training system for their seamen. We exchanged views on the present situations of seamen in both countries.

(7) Meeting with ex-participants.

On February 5, we had a meeting with the ex-participants at Orchard Hotel. We could have a kind attendance of Mr. Chua Lian Ho, Director of the Board and six ex-participants of the course.

6. Comments

We observed three distinguished aspects here, administrative structure of National Maritime Board which is functioning efficiently by statutory board system, practical educational system which will meet fully the future demands and well experienced and well trained personnel. We are sure all these will contribute to further development of shipping industry in Singapore.

Itinerary of the Team

- Jan. 30 (sun.) Arrive Singapore
- 31 (Mon.) Visit Embassy of Japan and JICA Office
- Feb. 1 (Tue.) Visit Marine Department
(Ministry of Communications)
Visit National Maritime Board
- 2 (Wed.) Visit Training Ship " Singapore "
- 3 (Thu.) Visit Singapore Polytechnic
Visit Marine Department (D.S.A.)
- 4 (Fri.) Visit Neptune Orient Lines Ltd.
Meeting with ex-participants
- 5 (Sat.) Visit JICA Office for reporting
Leave Singapore

Dear Sirs

It is our great pleasure to submit herewith the summary report of the Technical Follow-up Team for the Ex-participants of the Group Training Course in Administration for Seamen's Education.

Through meetings and discussions, we have received opinions and suggestions from the authorities concerned and ex-participants.

Those suggestions are very informative for us to make further improvement of our training programme and we would like to make the full use of the result as much as possible in the future programme.

It is also our great pleasure to have seen the ex-participants and have known that they are actively engaging in their respective duties.

We would like to thank all the officers concerned and ex-participants for their kind support and suggestions extended to us during our stay in this country.

Sincerely yours

Shozo Kato

Technical Follow-up Team

Summary Report of the Technical Follow-up Team for
Ex-participants of the Group Training Course in
Administration for Seamen's Education

1. Introduction

The Group Training Course in Administration for Seamen's Education has been conducted by the Government of Japan as part of its Technical Cooperation Programme since 1971 in order to introduce the present situation of administration and educational system for seamen in Japan through lectures and observations.

On January 24, 1983, the Japan International Cooperation Agency dispatched the technical follow-up team for ex-participants of the above training course to Malaysia for the purpose of following up the result of the course.

2. Team Members

Mr. Shozo Kato

Chairman of Navigation Department, Institute of Sea Training,
Ministry of Transport

Mr. Hiromitsu Muraki

Special Assistant to the Director of the Division, Educational
Division, Bureau of Seafarers, Ministry of Transport

Mr. Fumiaki Yoshizaki

Staff Member of the First Training Division, Training Affairs
Department, Japan International Cooperation Agency

3. Period

From January 24 to January 30, 1983 (Itinerary is attached .)

- (3) Visit to Malaysian International Shipping Corporation
We met Mr. Mohd Din, Manager of Training Department and two ex-participants, Mr. Nazli Bin Abd Manan and Mr. Albert Devsagayan. They explained to us the outline of their corporation and their training system of their employees.
- (4) Meeting with ex-participants
We had a meeting with ex-participants at Holiday Inn on January 28. Three ex-participants, Mr. Khamis Bin Abu Amin, Mr. Ismail Bin Hassan and Mr. Nazli Bin Abd Manan attended it. They gave us their opinions on the training programme. Major one of them was that the programme should be concentrated in more special fields or a short period of individual programme in particular field should be attached to the group training programme.

6. Comments

- (1) At the Maritime Academy, they started a new educational system for ratings in October, 1982 and also will start a new one for officers this year. We think that those educational systems are very suitable ones for their needs in this country.
- (2) The facilities of the Academy that we observed are excellent ones. We, however, think that more teaching materials should be equipped for effective training in the future.
- (3) Since 1972, we have received 11 participants to this group training course, and all of them came mainly from Malaysian International Shipping Corporation and Maritime Training Center. We think that administrative officers of the government may also apply for the course, since the present one is aiming at giving a general view of administrative and educational system in Japan.

4. Objectives

- (1) to investigate how the ex-participants have been doing after completion of the course and to get opinions and suggestions on it from them and the authorities concerned,
- (2) to investigate the present situation on seamen's administration of this country in order to meet their needs in the future programme.
- (3) to introduce the ex-participants to the up-to-date information of administration for seamen in Japan.

5. Summary of the activities

(1) Visit to Maritime Department, Ministry of Transport

We met Director-Capt. Othman Bin Darus of the Department. He explained to us the scheme of new legislation on qualifications to meet the demands of STCW treaty as well as welfare system for seamen, which they were going to prepare. He also told us the possibility of requesting the dispatch of a Japanese expert in the field of welfare for seamen as well as sending one of his officers to 1983 group training course in Japan.

(2) Visit to Maritime Academy

We met Capt. P. C. Nadkar, Mr. Abdullah Bin Ali, two ex-participants, Mr. Khamis Bin Abu Amin and Mr. Saad Johari Bin Yaman and other instructors of the Academy. They explained to us their new scheme of educational system for officers' and ratings' training. They also commented on the group training course that the present course was useful to get a general view of the seamen's administration in Japan, but individual training programme in particular subjects would be more beneficial for them.

Itinerary of the Team

- January 24 (Mon) Arrive Kuala Lumpur
- 25 (Tue) Visit Embassy of Japan and JICA Office
Visit Maritime Department, Ministry of Transport
- 26 (Wed) Visit Maritime Academy
Stay over-night at Port Dixon
- 27 (Thu) Return to Kuala Lumpur
- 28 (Fri) Meeting with ex-participants
- 29 (Sat) Visit Malaysian International Shipping Corporation
- 30 (Sun) Leave Kuala Lumpur

JICA